

清滝地区

緑豊かな清滝地区は、関門海峡を眼下に望む急斜面にある。清滝という地名は、文字通り「清らかな滝」を意味し、海を渡る船乗りが航海に備えて樽に飲料水を満たした滝が数多くあったことに由来する。20世紀初頭の最盛期には、市役所が置かれ、賑やかな娯楽の中心地だった。

清滝の狭い石垣の路地には、かつて三味線のリズムカルな音と、高級料亭での客との待ち合わせに急ぐ芸者の下駄の音が響いていた。街の「奥座敷」と呼ばれた歓楽街は、かなりきわどい評判だった。門司の有名な料亭「三宜楼」は、政治家、実業家、作家など、戦前の裕福な客をもてなしたが、今も清滝で謙虚なスケールにはなったものの営業している。

門司の華やかさが失われ、芸者衆が去り、娯楽館や料亭の多くが廃業し、清滝は閑静な住宅街となった。現在では、門司港駅から徒歩10分ほどのところに、小さなアートギャラリーやブティック、カフェが見られる。観光客は風情ある小道を散策し、水の流れや街の景色を眺めにやってくる。丘の中腹にある清滝公園（1916年開園）は、日本初の林学教授で「日本の公園の父」と呼ばれる本多静六（1866-1952）が設計した。緑豊かな斜面や小川の流れも、清滝のゆったりとした、時代を超えた魅力のひとつだ。